

対話の集い
移動市役所



よりよい大館をめざして

率直な声が寄せられました

市では、市民の皆さんから市政に対する率直なご意見、ご要望をお聞きし、「ふるさと大館」のよりよい明日を築くため、毎年対話の集い「移動市役所」を開いています。昨年は、八月二十二日から九月二十九日まで、十四会場で開催しました。道路関係など身近な問題から市の将来にわたる問題まで、三百十四件ものご意見、ご要望が寄せられました。今号では、その中から主なものについてお伝えします。

建設関係

◇道路関係

【問】 武道館前から古川町への市道は、道幅が狭いうえ交通量が多いので大変危険だ。拡幅改良をしてほしい。

【答】 確かに道幅が狭く車の交差も難しい現状ですので、今後の整備計画に組み入れたいと考えます。拡幅に当たっては用地所有者の協力が必要ですから、町内からも用地所有者へお話し

してほしいと思います。

【問】 私道を市道にするための手続き、基準を教えてください。
【答】 一般的な進め方は次のとおりです。

- (1) 町内会、または地区の代表者から要望書を提出してもらいます。現道敷地と拡幅用地は、原則として無償提供していただいていますので、その土地所有者からの無償提供同意書もできる限り添付してください。
- (2) 市道認定基準、例えば道路幅を四倍以上とれるか、袋小路の場合は車がUターンできる広場がとれるか、などについて現地

市長メモ



No.47

今こそ平和を

このメモが皆さんに届くころは、湾岸戦争から一カ月近くになります。戦争は誠に不幸なことであり、悲劇です。

冷静に考えてみれば、双方が使用している兵器は同じものですし、米ソ関係のデータント化からしても、無用の兵器の消費の場とも言えます。

評論家のつもりではありませんが、金も物も人も出すことは結構です。しかし、「何のために」という目的が明確でなければなりません。その目的とは「平和」以外にはかないのです。とすれば、一方に組して戦勝終吉するのはなく、どうすればこの交戦を止められるかに向かつて最大の努力をすることが、私たちの責務ではないでしょうか。

武力や暴力で紛争を解決することは、平和と民主主義の敵です。民主主義を自負する国々がなぜそれを求めたのでしょうか。平和憲法を持つ日本こそが、今、世界のリーダーシップを発揮する機会なのです。

ふるさと大館